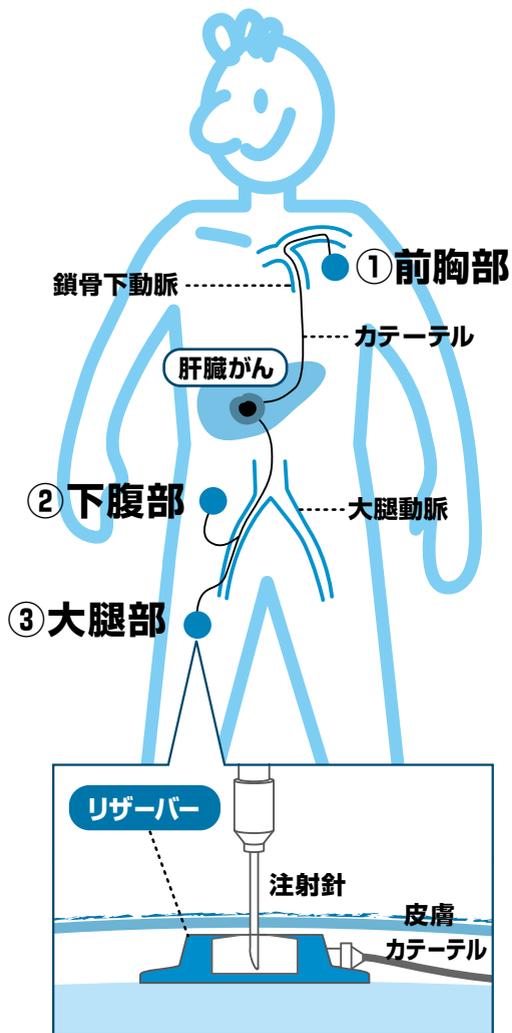


リザーバーを埋め込む主な部位



リザーバーに、皮膚の上から針を刺して、抗がん剤を注入します。

— 抗がん剤投与の新しい形 —

動注リザーバー療法 をご存知ですか？



Q1 動注リザーバー療法とは何ですか？
普通の抗がん剤治療とは
どう違いますか？

通常の抗がん剤治療は、内服（飲み薬）あるいは注射（静脈注射や点滴）で薬を投与します。動注リザーバー療法では、カテーテルという細い管を、がんの近くの血管まで挿入し、「リザーバー」という小さな器具に接続し、皮膚の下（場所はカテーテルを入れる部位によって決まります）に埋め込みます。こうして埋め込んだ「リザーバー」に、皮膚の上から針を刺すだけで、がんへ直接抗がん剤を投与することが可能となります。がんの近くから薬を流すので、全身に抗がん剤を投与するのに比べて、何倍もの濃い抗がん剤が、がんへ作用することになります。また、全身に流れる抗がん剤の量が少なくなりますから、副作用が少なくすむことが期待できます。

Q2 どんな病気に使うの？

代表的なものとして、肝臓がん（肝細胞がん、大腸がんの肝転移など）に対する抗がん剤治療のひとつとして用いられます。この他にもさまざまな病気に応用されています。

IVR学会 広報委員会

日本IVR学会 事務局
〒355-0063 埼玉県東松山市元宿1-9-4ハイムレグス1階
<http://www.jsivr.jp/>

(2006年5月制作)

IVR学会
<http://www.jsivr.jp/>

Q3 リザーバーの埋め込み(留置)はどのように行うの?

リザーバーを留置する方法にはいくつかあります。代表的な方法としては、左の鎖骨の下(鎖骨下動脈)、股の動脈(大腿動脈)などがあります。局所麻酔で行い、皮膚に3~5cmの切開をします。ここから患部に向けてカテーテルを挿入し、リザーバーとつないで皮下に埋め込みます。皮下に埋め込まれた後、触って認識できる部分の大きさは、コインを数枚重ねた程度です。挿入に必要な時間は、おおむね1時間半から2時間半程度です。

Q4 治療はどのように行うの?

リザーバーを留置すること自体が治療ではありません。留置されたリザーバーから薬を投与することが治療になります。

薬の投与は多くの場合外来で行われますが、入院で行う場合もあります。治療計画(抗がん剤の投与計画)についての詳細は担当医にご質問ください。

Q5 日常生活に支障はありますか?

リザーバーは完全に皮下に埋め込まれるため、日常生活を送る上での障害はほとんどありません。この治療の大きな特徴は、外来通院でも受けられることです。抗がん剤を投与している間も、自由に動くことができますし、投与が終われば針は抜きますので、激しい運動をしない限りは生活に制限がなく、傷が治ればお風呂にも入れます。

Q6 リザーバーを埋め込んでも副作用はありますか?

リザーバーの埋め込みは「小さな手術」のようなものであり、出血や感染といった合併症が考えられます。その他、特に上半身にリザーバーを埋め込んだ場合に、脳梗塞を発生することがあるといわれています。ただし、その頻度はまれであり、症状も軽度であることがほとんどです。

胃や十二指腸などに流れる動脈が、肝臓の動脈から枝分かれしている場合には、抗がん剤により胃潰瘍や十二指腸潰瘍などをきたすことがあるため、これらの動脈に抗がん剤が流れないようにする必要があります。このような方法を「血流改変術」といいます。治療を長く継続していく上で重要な処置です。

Q7 リザーバーはどのくらいの期間、埋め込んでおくの?

動注リザーバー療法は長期間にわたり行われることがあります。このためリザーバーも長期間留置されたままとなります。

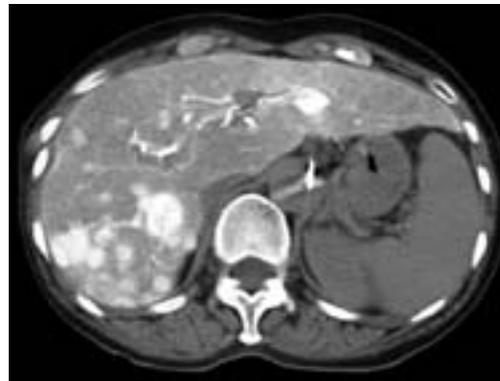
また、一度留置されたリザーバーを体から摘出することの是非についてはさまざまな意見があり、統一されていないのが現状です。詳しくは担当医にご質問ください。

Q8 埋め込みは外来でできますか?

リザーバー留置には入院が必要です。入院期間は3~7日間程度とお考えください。ただし、引き続き抗がん剤治療が開始される場合には、入院期間がスケジュールに伴って延長することがあります。

Q9 リザーバーが留置されたら、いつから薬を入れますか?

留置後、リザーバーから造影剤を注入しながらCT撮影を行います。肝臓全体(あるいは目的とする部分)に薬が行き渡っているかどうかを確認する目的です。



リザーバーからの造影CTで、肝臓全体が白く染まっている。

肝臓(あるいは目的とする部分)以外に造影剤が漏れていたり、肝臓(目的とする部分)全体に造影剤が分布していない場合に治療を開始すると、合併症が起こったり、効果が得られないこととなりますので、血流改変術(Q6をご参照ください)を追加し、きちんと肝臓全体に薬が分布する状態してから治療を開始しなければなりません。なお、血流改変術は血管造影の要領で行います。きちんと薬が肝臓全体に分布し、肝臓以外に漏れていないことが確認できたら、治療を開始します。

Q10 埋め込んだ後に注意することはありますか? お風呂は入れますか?

リザーバー埋め込み時の傷が癒えるまで(抜糸するまで)は傷口をぬらさないようにしてください。また、留置部の過度の運動は避けてください。リザーバー留置後、抜糸までの期間はお風呂には入れませんが、適切な処置をすることでシャワー浴は可能です。また、抜糸後には通常通りの入浴が可能です。

Q11 治療中や治療後に気をつけることはありますか?

抗がん剤投与中に、お腹や背中に痛みや張る感じがあれば、カテーテルを入れた血管が詰まってしまったか、あるいは胃や十二指腸に抗がん剤が流れている危険性があります。このような症状が現れた場合には、すぐに担当医あるいは病院までご連絡ください。

Q12 保険はききますか? 費用負担はどれくらいになりますか?

健康保険が適応になります。実際の費用負担は施設にご質問ください。

Q13 インターネットで検索できますか?

- リザーバー研究会ホームページ
(<http://www.reservoir-jp.com/>)
- 日本IVR学会ホームページ
(<http://www.jsivr.jp/>)

で確認できます。